

ふたりのコラム

December 24, 2021

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5 歳児》 クリスマス会

街はイルミネーションで、にぎやかな装いですね。明かりは、人の心を温めてくれます。私は、人込みは苦手ですが、メイプルパークのイルミネーションなど、暗いところに静かにともる明かりには、ほっとします。

さて、先日クリスマス会では、5歳児が「パワーのでるなかま※」で出し物を行い、3・4歳児は、クラスで歌を歌いました。5歳児は、当日を迎えるまでに、パワーのでるなかまで話し合ったり修業（練習）を重ねたりしてきました。小さいクラスの子どもたちは、その5歳児にあこがれを持って見ていました。クリスマス会后、小さいクラスでは、そのクリスマス会のまねっこ遊びがたくさん行われています。



パワーのでるなかま※

5歳児の最終目標は、【合意の形成】「自分も大切、相手も大切」です。パワーのでるなかまは、小グループの中で、各々が自己発揮し、相手のことも受け入れることができるようなことを願い作っています。それが、今後願う、クラス集団の中で合意の形成に繋がっていきます。

仲間を編成する視点・・・個々の良さや課題を踏まえて、それぞれの子どもたちが、自己発揮できるように考慮している。

組み方と成長例・・・*意見は積極的に伝えることができるが、なかなか友だちの意見を受け入れられない子ども同士が組んで、意見がぶつかり合い、なかなか物事が進められないような経験をする。そして、相手の意見を聞き、そこで自分も相手も納得できるような方法を考えることが必要だということに気づく。

*いつも人の意見を待ち、それに従っている子ども同士と一緒に組み、誰も意見を言わず、自分たちのグループだけ進まず、どうにかしなくてはならないという局面に立ち、自分の意見を少しずつ相手に伝えることができるようになる。

子どもたちにとってなぜパワーのでるなかまが必要か（子どもたちの視点から）

・・・力を合わせ修業を積むことで、かっぱに会えるかもしれないと考えている。

5歳児になると次第に、友だちと話し合いながら、物事を進められるようになってきます。それは、3歳児でみんなと一緒に楽しさを感じたり、4歳児で楽しいことをたくさん友だちと共有したり、時にはけんかをして悔しい思いをしたりという、経験の積み重ねがあつてのことです。各学年の今の成長の姿を大切にしていきたいと思っています。

もちつき



杵と臼で、今年ももちつきが行われました。昔は、この時期になると焚火を行い、いろいろなところからこのようにおいが流れてきましたが、今では、環境的に難しいですね。さて、かまどで炊き上げたもち米の香りは格別でした。また、その粒々のもち米が柔らかく伸びるお餅に変化する過程にも感動でした。今回、5歳児を中心に行いましたが、小さい学年の子どもたちも関心をもって見に来ていました。このような体験は子どもたちにとってとても貴重です。きっと心のどこかに刻まれ、大人になったとき、ふと思い出す光景かもしれませんね。

引渡し訓練

先日は、引き渡し訓練にご協力いただきありがとうございました。私たち法人では、月1回の避難訓練（火災・地震・不審者等）を行っています。そして、危機管理班を中心に風水害や竜巻などへの対応等についても討議を重ねています。今回初めての引き渡し訓練でしたが、今後、毎年計画していきますので、お忙しいとは思いますが、いざというときのために、ご協力をお願いします。また、災害が訪れた時、すぐの迎えにいらっしゃれない状況もあるかもしれません。もし連絡が取れなくなっても、お渡しできるまで、確実にお預かりしていますので慌てずお迎えにいらしてください。園では、防災用品もそろえ、いざというときに対応できるようにしています。今後も、安心・安全に努めてまいります。

勉強会

保育者は、日々保育において、子ども理解を深め、その子が今どのように感じてそのような行動をとったのか。また、今どのようなことに興味・関心を持ち、遊んで（＝学んで）いるのかを探り、子どもたちが自ら考え、試すことができるような環境の構成を行い、援助しています。担任・副担任等、日々連携を図り、情報共有し保育を進めています。また、そのような日々行われている保育者同士の話し合いに加えて、外部研修や園内研修も行い、保育の質の向上に努めています。「幼小連携プロジェクト」「まとめの会」をご紹介します。

幼小連携プロジェクト

今年で7年目になりました、赤見小学校とあかみ幼稚園の幼小連携プロジェクトでは、お互いの授業・保育を参観して、情報共有しお互いを理解し合い、緩やかな接続を目指しています。文科省では、架け橋プログラム特別委員会※を設置し、保幼小の架け橋プログラム事業が行われることとなりました。連携が必須であると今まででも言われてきましたが、今までよりも踏み込んで架け橋期の教育の質についてのプログラム開発を行うことになりました。（※教育・保育にかかわる有識者で成り立つこの会議に、理事長中山がメンバーとして参加しています）

私たちが今まで続けてきたことは、非常に意味あるものであると、改めて感じました。

まとめの会

学期ごと、施設ごとに全保育者が参加し、保育実践検討を行っています。今回の勉強会では、今年メイプルキッズ・あかみ幼稚園の保育者が健康・環境・言葉・表現の4グループに分かれた研究を行ってきた発表も行いました。保育者たちが、自ら学びを深め、現場実践に生かし、お互いが刺激を受け合うことは大切であると改めて感じました。このような、小さな研究の積み重ねを今後も進めていきたいと思えます。

ありがとうございます！（感謝♡）

保護者会のアンケートにご協力いただきありがとうございました。当園での生活がよかったというようなご記入があったとお聞きしました。また、先日、職員への感謝の気持ちをメールでいただき、私たちもとても幸せな気持ちになりました。私たちは、保護者の皆様と子どもたちの成長をともに喜び合える関係性、いつも温かい目で、保育者たちのことも応援して下さることに感謝です。



今年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。

（文責：中田）

《0・1・2歳児》



今年の冬は本当に寒いですね。クリスマスの後には、また寒波が到来するようです。天気予報によると、師走としては、過去最強クラスの様です。ぜひ、みなさん、暖かくしてお過ごしくださいね。



さて、メイプルキッズつくし組では、12月より新たに2名入園し、クラス全員が揃いました。

始めのうちは、新しい環境に慣れず、お家の人が恋しくて泣いてしまうこともありましたが、日に日に園での生活にも慣れ、今では笑顔いっぱい過ごしています。つい先日も、園庭でお散歩を楽しんでいたのも、声を掛けると、私をジーっと見てから、担当保育者に抱っこをせがんでいました。抱っこされると安心して、また私の顔をジーっと見ていました。私がバイバイと手を振ると、バイバイと手を振り返してきました（よく知らない人（私）が来ても先生がいるから大丈夫と思い、安心して手を振り返したのでしょう）。

担当保育者がしっかりと安全基地になっている証拠だなと、嬉しくなりました。何度もお伝えしていますが、この時期の子どもにとって、特定の大人（担当保育者）との安心できる関係作り（愛着形成）が大切になります。お家の方との関係が一番ですが、園ではその役割を保育者が担っていきます。この人がいるから大丈夫！！そう思えることが何より重要です。こうした関係が基盤となり、子ども達はどんどん成長していきます。

最近では「あ・あ」と声を出して、指差しをして訴えてくる子もいます。そんな時保育者は、子どもの指差しや喃語に丁寧に言葉で応答していきます。「〇〇だね」「お外行きたいね」「ごはん食べようね」などなど・・・応答的に関わりながらこうしたやり取りを繰り返しています。そうした積み重ねが、言葉の獲得や自己表現への意欲につながっていきます。月齢の差もありますが、最近では「ばいばい」や簡単な要求を言葉で言えるようになった子もいます。本当に日々の成長は目まぐるしいです。私たち保育者は子ども達からの発信に丁寧に応え、「この人といると安心」と思える「安全基地」になれるよう関わっています。



1歳児クラスの子ども達もぐーんと成長を見せて来ています。言葉でのやり取りもさらに発達してきました。最近では、作った物を何かに見立てたり、意味づけをすることも増えてきました。こうした姿もこの時期ならではの姿です。保育者は子ども達の見立て遊びがさらに楽しくなるよう、関わっています。例えば、子ども達の「見て、〇〇だよ」「〇〇作ったよ」等に対して、ただ「すごいね」「ほんとだ」と応えるだけでなく、「わーおいしそう、先生も食べたい」などと返すことで、もっと作ろうとしたり他の物を作ろうとしたり・・・遊びがさらに広がっていきます。また、この時期の子どもたちは、自分以外の人を意識し始めるころでもあります。ママの真似をして、ごっこ遊びを楽しむ姿も見られ始めます。保育者がモデルとなってイメージを広げ、「いただきます」「おかわりちょうだい」など言葉を交わしながら生活の再現をし遊びを楽しんでいます。人形をおんぶしたり、ママのようにトントンして寝かせようとしていたり・・・子どもは大人が思うより、大人の姿をよく見ていますよ。



2歳児クラスの最近の様子は・・・巧みな日本語が飛び交っています。スタッフルームにいと、ケガをした子が手当てを受けに来ることもありますが、「痛かったね、どこにぶつけたの？」と聞くと、以前は黙っていた子も「お部屋で〇〇してる時に〇ちゃんとぶつかった」など状況を説明することもできるようになってきています。

また、言葉の発達とともに自我も芽生え、「自分で～」があちこちで聞こえてきます。でもまだうまくできないのが、2歳児・・・。

そんなときは、子ども達の気持ちを汲み取りながら、保育者が丁寧に関わっています。トイレ付近でも、「自分でできるの、すごいね」「先生待ってるよ、がんばれ」など、いつもあたたかい声掛けが聞かれます。子ども達の自我「自分で～」を受け止めながら、自分でできた満足感や達成感が味わえるように、これからも関わっていきたいと思います。メイプルキッズの子ども達の成長を、今後もお家の方と共有し、ともに喜びあっていきたいと思っています。

(文責：新井)